

島田市自主運行バス伊久身線、相賀線の運行について

1 地域公共交通の現状

近年、バス運転手を中心とした人材不足が深刻化し、通年の安定的な運行に支障をきたしつつあり、運行委託費上昇の要因のひとつとなっています。

令和2年度からは、相賀線をバスからタクシーと運転代行業者によるワゴン車に転換し、経費の節減を図っていますが、タクシー事業者及び代行業者も慢性的な人材不足によって経費が上昇しており、状況は好転しておりません。

2 今年度の運行について

乗車状況データを検証し、特に乗車人数が少ない部分について、以下のとおりとさせていただきます。

(1) 伊久身線、相賀線について、令和2年8月1日より土日祝日を運休します。

(裏面資料参照。引き続き、並走する川根温泉線は全日運行します。)

(2) 合わせて、年末年始期間(12/29～1/3)について、既に運行していない路線に加え、川根温泉線、湯日線以外の路線を運休します。(既説明事項)

なお、特に影響の大きい伊久身自治会、相賀自治会へは既に説明を行っております。さらに、沿線自治会にお知らせします。

事業者による国への申請手続きの関係上、島田市地域公共交通会議において議題とさせていただきます、承認を得たのち広報誌等により市民へ周知を図ります。

3 不便の解消に向けて

運休日における御堂沢～山の家及び上相賀～北中学校の輸送手段の確保に向け、地元主体による無償運送事業への支援を行います。

具体的には、昨年度鍋島地区で実施した実証実験を踏襲し、運行車両の無償貸与、必要経費の負担及び組織づくり等のサポートを予定しています。

また、伊久身地区から要望が出ております、伊久身線平日午前11時台のバス復活について、令和3年4月から再運行するよう作業を開始するとともに、週末に部活動でバスを利用している北中学校の生徒への支援について、どのようなものが可能か教育委員会と共に検討します。

4 令和3年度以降の運行について

公共交通事業者が抱える人材不足問題は解決が難しく、今後も経費の上昇は避けられません。

また、新型コロナウイルスによる公共交通事業者への影響は深刻で、将来的に今までと同様な事業を展開できるか不透明な情勢です。

市としまして、鉄道、バス、タクシー、代行業者、地域住民等のそれぞれの役割を踏まえた、持続可能な公共交通網を策定、実行していく必要があるため、引き続き研究、検討を続けます。

(参考資料)

令和元年度伊久身線・相賀線運行データ

区分	平日平均	土曜平均	日祝日平均	年末年始平均
伊久身線	6.4人/便	4.0人/便	2.7人/便	2.3人/便
相賀線	4.7人/便	3.5人/便	2.3人/便	2.1人/便
(参考) 川根温泉線	10.2人/便	8.7人/便	7.4人/便	6.5人/便